

令和7年度 郡山ヘアメイクカレッジ
学校関係者評価報告書
学校関係者評価報告責任者: 学校長 佐藤知子

1. 学校関係者評価委員

①菅野 茂 株式会社菅野二郎商店 代表取締役
②鈴木 扶美 スタジオ・シェルパ代表 卒業生

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 令和 7年 8月 18日 本校会議室
第2回委員会 令和 8年 3月 23日 本校会議室

3. 学校関係者評価委員会報告

①学校の教育目標

「専門教育」と「社会的応用力の育成」に加え、これからの時代に必要不可欠であるグローバルスタンダードな観点から「国際化教育」「情報化教育」を深め、幅広い視野と確かな応用力を備えた創造性豊かな人材育成を目標とする。

- 確かな専門技能と応用力を身につけ、美容界で活躍できる人材を育成する。
- 自ら挑戦し、課題を発見し、これを解決する能力を持ったリーダー(けん引者)となる人材を育成する。
- 社会貢献・地域貢献の精神を持ち、幅広い社会性を備えた人材を育成する。

②本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

【令和7年度に定めた課題事項】

- サービス業の基本であるコミュニケーション能力(言葉遣い・マナー・礼儀・返事・あいさつ)を高めさせる。
- 学力、技術面においての個人差を少しでも無くし全体的なレベルアップ及び意欲的に資格取得をめざす意識づけをする。
- 専門技能と応用力に加え積極性を身に付け、粘り強く美容業界で望む人材を育成する。
- 教員に対する指導力向上及び資格取得のための研修参加などレベルアップをはかることにより意識と自信を高め教育に活かすことが出来るようにする。

(1)教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
・学校の理念・目的・育成人材は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4	③	2	1
・学校における職業教育の特色は何か	4	③	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	4	③	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

①課題

- ・業界ニーズに向けての方向づけ強化。
- ・年々コミュニケーション不足なのか、あいさつを自発的にする学生が少なくなっている。
- ・社会貢献、地域貢献の観点からもボランティア活動を教育の中に取り入れているが、希望者に偏りがあり、一部の学生のみとなっている。

②今後の改善方策

- ・少しずつではあるが、就職後も活かせる授業内容を増やしていく。
- ・コミュニケーション能力を高める為の指導が必要になってくる。
- ・決定しているボランティア活動には、全学生参加型の活動へと発展させることも良いかと思う。

③特記事項

- ・授業等に取り入れて、話をする機会を増やしていく。

④学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(2) 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	③	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

①課題

- ・学校の運営体制や意思決定の流れについて、教職員間での情報共有に改善の余地がある。
- ・人事に関しては、今後の運営を考え、職員の増員が必要。校内、取り入れる校外活動において人員の不足を感じることもある。
- ・少子化になってきてるなか、美容業に興味を持つ人も少なくなっていくので興味を持たせる宣伝等が必要になる場合がある。

②今後の改善方策

- ・組織図を更新し、教員、事務も含めて、それぞれに責任をもち業務に取り組めるようにする。
- ・教務、事務のどちらに人が必要か現場を見て、見極め考えていきたい。
- ・ガイダンス等で宣伝をしているが、ボランティア参加等で学生外でも知ってもらえると広がりが増えるかなと思う。

③特記事項

- ・ボランティアも費用がかかる場合と参加してくれる学生がいるのかも重要なので相談が必要。

④学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(3)教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	③	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	③	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育(産業連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修が行われているか	4	③	2	1

①課題

- ・今年度は卒業生の講話などを教養としてお願いしていないので、意識づけのためにも行いたいと思いました。
- ・基礎的な知識・技術だけでなく、卒業後、即戦力となるよう応用的技術を身につけさせること。
- ・学校で学べる技術の幅を増やしていけたらと思う。
- ・企業、業界団体との連携は実施しているが、より体系的な連携体制の構築が必要ではないか。
- ・職員の技術向上のための研修計画の継続。
- ・業界ニーズを図るべく授業内容の見直し必要。

②今後の改善方策

- ・2年生のカリキュラムに入れたいと思います。
- ・協会の先生方や講師の方などに協力していただき、授業をしていただくこと。
- ・外部の講師を招くことができると、最新の技術などを学生に伝えることができる。
- ・実技授業での外来講師の採用。毎回新しい講師よりは、ローテーションなどで、慣れていただきたい。
- ・全体の行事をみて可能な限り必要と思う研修を年1～2回は計画していきたい。春or夏。
- ・卒業生からの聞きとりや情報収集。

③特記事項

- ・招くにも費用がかかる場合があるので、相談が必要。
- ・通信課程600時間実施、計画。

④学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(4) 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
・退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

①課題

- ・就職活動の取り組み、意欲がない学生の対応。
- ・一部の学生によっては、指導しても学力がなかなか身につかない学生がいるので成績判断で内定をもらえないことがある。
- ・退学する学生の見極め。
- ・就職率の向上に向けた、個別支援の強化。
- ・卒業後どのように学校での学びが生かされているのか把握がイマイチできていない。

②今後の改善方策

- ・1～2ヶ月に1回面談をするなど声かけを続けていくこと。
- ・サロン側とも関わりを深くして、どういう学生が必要か、学生の特徴を伝えていくことが必要になる。
- ・退学しようとする学生への呼び止め。
- ・担任による個人面談→時間を取るのが難しい。
- ・来校時、作成してあるアンケートに回答してもらう。

③特記事項

- ・学業、コミュニケーションに関して指導していく必要がある。(学生と接する時間を多くする。)
- ・卒業生講話を実施。

④学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(5) 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

①課題

- ・メンタルが弱い学生が増えてきており、指導や接し方で学生の状態が変わること場合がある。
- ・いじめや問題行動の未然の対処
- ・学生支援体制は概ね整備されているが、進路、就職支援、そして一番に学生相談体制の充実が必要だと思う。
- ・高校との連携。

②今後の改善方策

- ・学生の性格等を理解して、その学生に合わせて指導をしていくことも必要なのかなと思う。
- ・常に学生に気を配る。
- ・通信高校との職業教育の一環として美容コースにて連携を図る。

③特記事項

- ・学生に近すぎず、放置しすぎもよくないので距離感はある。

④学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(6) 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	④	3	2	1
・学内外の実習施設・インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

①課題

- ・実習室の冷暖房、水道等の使い方

②今後の改善方策

- ・改善はとっているが、やはり冷暖房に関しては、暑い、寒いがあるので時期に合わせて使用する教室を変える。

③特記事項

- ・臨機応変に教室の使い方は授業の内容を変更している。

④学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
・学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

①課題

- ・少子化の中、安定した人数の学生の受け入れをしていくこと。
- ・少子化状況での募集強化
- ・SNSでの活動や連絡等など活動を広げていく。

②今後の改善方策

- ・ガイダンスへの参加やオープンキャンパスの開催。特にオープンキャンパスでは授業内容の精査や在校生の協力が必要。
- ・魅力ある授業内容の提示、発信ができるよう取り組む。
- ・保護者によってはLINEの参加などしない方もいるので、必ず登録してもらうよう伝えていく必要がある。

③特記事項

- ・連絡等は文書ではなくLINEだけで行う等。

④学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(8)財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
・予算・収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

①課題

・物価や光熱費も値上がりをしていく中で、予算も年々上がっている。

②今後の改善方策

・少しでも低価格なものを選択していくことと、無駄な物をなくしていく。

③特記事項

・身近でできることをしていく。

④学校関係者評価委員コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

①課題

・自己評価している中で、その月によって良い所や悪かった所が変動している。

②今後の改善方策

・すべてが完璧には難しいが少しでも良い部分を増やしていくよう、日々考え方を变えて実行していけるよう努める。

③特記事項

・細かいミスをなくす。

④学校関係者評価委員コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
・学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	④	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

①課題

- ・土日のボランティアには積極的に参加しているが、限られた人(いつも同じメンバー)になってしまっている。
- ・ボランティア活動で問い合わせはくるが、参加してくれる学生が少ない傾向である。
- ・ボランティアやイベントへの参加が増えてきたが、参加する学生が毎回同じになってしまうこと。
- ・一部の学生のための参加にとどまっているため、拡充するのが課題だと思う。

②今後の改善方策

- ・平日、授業時にできる活動の検索を行う。
- ・人との関わりや、自分や友達以外の人たちに触れて、技術を提供することでやりがいを見つけさせたい。
- ・授業の一環として参加させたり、参加できる応用的な技術力が身につく授業を取り入れていくこと。

③特記事項

- ・コミュニケーション能力をあげたい。

④学校関係者評価委員コメント

- ・高齢者施設は感染症の為おこなわないが、ボランティアで多いのは献血との意見をもらった。